

## 平成22年度 食の安全安心セミナーの開催結果

- |   |   |   |                |  |
|---|---|---|----------------|--|
| 1 | テ | マ | 「輸入食品の安全性を考える」 |  |
| 2 | 開 | 催 | 日時             | 平成22年10月15日（金）午後1時30分から午後4時まで  |
| 3 | 開 | 催 | 場所             | エル・パーク仙台 6階スタジオホール<br>(所在地 仙台市青葉区一番町4-11-1 141ビル)  |
| 4 | 参 | 加 | 対象者            | 県内の消費者、生産者・事業者、行政・関係機関   |
| 5 | 開 | 催 | 内容             | (1)基調講演 社団法人全国はっ酵乳乳酸菌飲料協会専務理事 森田 邦雄 氏<br>(2)パネルディスカッション<br>○コーディネーター<br>宮城教育大学教授（みやぎ食の安全安心推進会議会長） 小金澤孝昭 氏<br>○パネリスト<br>・（社）全国はっ酵乳乳酸菌飲料協会専務理事 森田 邦雄 氏（基調講演）<br>・東北放送㈱社長室長（みやぎ食の安全安心推進会議委員） 佐藤 敏悦 氏<br>・前みやぎ食の安全安心推進会議委員 壹岐 裕子 氏 |

### 1 参加者 123名

消 費 者：73名（消費者モニター：54名，食品表示ウォッチャー：5名，一般：14名）  
生産者・事業者：12名（みやぎ食の安全安心取組宣言者：12名）  
行政・関係機関：38名

### 2 開催概要

#### (1) 基調講演概要

- ・科学的に見て、その上で心理的に判断。安全と安心は違う。
- ・食品の安全性に関する意識調査の結果、80%の消費者が食品の安全性に不安を持っている。
- ・平成15年に食品安全委員会が行った食の安全性に関する意識調査の結果と今の消費者の考えは変わっていない。
- ・消費者は食品添加物，残留農薬等に危険を感じている。
- ・輸入食品に危険を感じる理由として，どのように作られているか見ること知ることができず信頼できない情報もある。消費者（輸入国）の意見も反映されない。
- ・日本の食料自給率は40%。輸入食品に頼らざるをえない国になっている。
- ・輸出国の生産者が輸入国の基準に合っているものを作ってくれる仕組みが大事。また，輸入する人が日本の法律に合っているものを作っているか確認することも大事。
- ・国の検疫所は全国に31箇所設置。すべての輸入食品の書類審査を実施している。1日1500件から2000件の届出件数。
- ・監視員の人数は20年前は約100人だったが，監視体制の充実化を図り平成22年度は約400人体制となった。
- ・モニタリング検査は科学的，合理的なやり方で商品の一部を抽出して実施。検査で一旦開封したも

のは商品価値がなくなり輸入者は返品するしかない。このため、全品モニタリング検査を行うと輸入食品がなくなってしまう。

- ・国の輸出国への対策として、日本で使える食品添加物の情報を英語版で周知したり、二国間協議、現地調査、また輸出国への技術協力を行っている。
- ・平成21年度の輸入食品届出件数は182万件で増加傾向にある。届出件数が増え、輸入重量が減少しているのは第1次産品が減って加工食品が増えていることを意味している。
- ・平成21年度輸入食品監視指導計画監視結果では、182万件的届出があり、試験室内検査を23万件行っている。検査率は12.7%。違反件数は約1500件。
- ・食品衛生法の違反内容で一番多いのは、食品又は添加物の基準及び規格の違反である。日本の基準と海外の基準が違うところに違反が多い。
- ・消費者の要望を受け、残留農薬等のポジティブリスト制度として「基準が設定されていない農薬等が一定量を超えた残留する食品の販売等を原則禁止する制度」を平成15年に公布、平成18年施行。
- ・農薬の残留基準の設定方法として、日本人が一日に摂取する食品中に含まれる残留農薬を推定し、その合計がADI（一日摂取許容量）の80%を超えない範囲で基準を設定。
- ・添加物に対する科学技術の実験は以前と比べ進化しているため、科学的に安全が評価されていることを知ってもらえれば、後は添加物の好き嫌いを消費者の選択に任せたい。
- ・無毒性量の100分の1をADIに設定しており、実際の日本人の摂取レベルはADIの数10分の1に留まっているのが実態である。
- ・ポジティブリスト制度の検査を始めた頃は違反件数が多かったが、現在は輸出国が気をつけるようになったことで違反件数が少なくなっている。
- ・安全衛生について科学的なもの、輸入食品のデータを理解していただき、心理的などころは消費者の選択にお任せしたい。

## （2）パネルディスカッション

### 【基調講演の感想など】

（佐藤氏）

食とマスコミは切っても切れない関係。安全と安心は違う、安全のための様々な検査体制は消費者に安心してもらうためにやっているのではなく、客観的事実としてやっており、問題はそれをどう評価するのか。私はマスコミの立場から、この問題をどのように評価してきたのか、そして皆さんにどの様に受け止められてきたのかを今日はお話したい。

（壹岐氏）

海外にいた経験があり、輸入食品のおいしさ、ある程度の安全性は実感している。しかし、食品を購入する時は必ずパッケージの裏を見て、原産地、添加物を確認しないと購入できない。国産が一番安全という気持ちを持っているが、講演を拝聴し、日本政府ができる限りのことをやっているということから、不安感をなるべく無くす方向で日々の生活を送りたい気持ちになった。本日は消費者代表として発言する。

### 【輸入食品の検査体制について】

(森田氏)

輸入届出の10%以上を検査しているが、どこまでコストをかけて検査すべきかが問題。また、検査所の認知度が低いことも問題。積極的に安全確保について消費者にお知らせし、意見、批判等を受け改善していくことが必要である。

(佐藤氏)

BSEを例にすると、全頭検査は安全性の立場からは無駄金かもしれないが、安心の確保のためには無駄金ではない。この二つに格差がある。検査をしていれば安全安心の両面の意味がある。国の検査によりBSEが発生したのではなくBSEを発見した。どこまで検査をするかは非常に難しい。発見したことで安全性を確保されたという理解が必要。マスコミもセンセーショナルに物事を煽り過ぎる傾向にあるが、検査の内容を考える段階にきていると感じる。

(壹岐氏)

輸入食品の監視体制において、一人の業務量が多くなると一つの書類にかかる時間が少なくなると思われ、消費者とすると人のやる作業なので見落としが生じやすい環境にあるのではないかなど思う。

(小金澤氏)

輸入食品の安全体制について、国が検査体制を持っているが、消費者に安心してもらうためには、消費者に検査体制を知ってもらうことが必要。国だけではなく地方自治体もやっており、食の安全安心推進会議、消費者モニターの体制を情報発信し、検査ならびに一般消費者も監視していることを強く言うことが検査体制をもっと強くすると思われる。

## 【輸入農産物について】

(小金澤氏)

輸入農産物が増えていく社会に問題点がある。国内の農林水産業の生産量が低くなったから輸入が増えたのではなく、輸入を増やすことでより安いものを提供する動きに問題がある。

(森田氏)

国産品が高くても日本の消費者が買うのか。国産の良さをアピールしていかなければ食料自給率は上がっていかない。

(佐藤氏)

河北新報のデータベースで1991年から20年間、「食品」と「安全」に関する記事を検索すると約4,500件あり、そのうち2001年からの10年間で3,000件で、その前が1,500件であり件数が倍増している。輸入品に対する危険性を認知すると同時に、自国で流通している食品も安心して食べられないかもしれない不安がこの10年間で急速に高まってきている。輸入食品の安全安心も含め食品全体に対する不信感の迷いの中に消費者が閉じ込められている。国産品の安全安心は一種の神話になってきている側面があり、輸入品を国産と偽ることも出てくる。消費者もマスコミも含め国産に対する認識と理解、安全安心に対するきちんとした考え方を持っていかなければならない。マスコミも国産だから安全安心ではなく、もう一方の裏側もあることを意識しながら報道しなけ

ればならない。

(壹岐氏)

なぜ国産は安心できるのか考えると、作っている人の顔が自分の顔と近く、質問があれば同じ言葉で聞くことができ、国の中のことであれば政府が確実に責任を取るだろうという根底がある。しかし、輸入品は誰が作ったか分からず工程も不明なため不安感がある。行政ばかりでなく、身近に輸出国の人の顔がわかるような機会を持つことが必要であり、気持ちの不安はその国の人や工程を実際に肌で触れることで取り除かれるものと感じている。

#### 【最後に】

(小金澤氏)

安全管理体制については国も地方自治体も努力している。私たちが食べているもの、食べる場所を安全安心にすることを忘れてはいけない。これからは口に入る安全安心だけではなく、作る国土を安全安心にしていくことも大事な考え方と思う。

(森田氏)

今後、食料資源をどう考えていくか。国内で廃棄されている食料は年間約1,900万トン。そのうち食べれるものは600万トンから900万トン。食料資源、環境負荷を考えると食べ物を大事にしなければならない。

(佐藤氏)

安全安心の情報を不安情報以上に積極的に流していかなければならないと思う。消費者は客観的に結果やデータを見ていただくことをお願いしたい。

(壹岐氏)

輸入食品に対する態度を改め、いろいろなことを考え、政府が検査していることを納得しながら試していきたいと思う。

#### 【参加者からの質疑応答】

- ・問 平成21年度の違反件数が平成20年度の違反件数よりも多い理由は。  
答 輸送中に海水を浴びる小麦にカビが発生した件数が増えてきた。(森田氏)
- ・意見 食料自給率の問題が全ての食の安全安心に引っかかると思う。消費者が価格を決めていることに問題があり、日本の消費者が安いものを求めれば、輸入業者は輸出国に対して正当な対価を払わず、これにより生産者の添加物の問題が出るなど、日本の消費者自身が原因を作っていると思われる。

### 3 アンケート結果（別紙のとおり）